

# 平成26年度 病害虫防除技術情報 第3号

平成26年7月1日

大分県農林水産研究指導センター

農業研究部

## 梅雨期における施設野菜の灰色かび病及びすすかび病対策について

本年度は、6月2日の梅雨入り以降、平年に比べ降水量が多く、日照時間も少なくなっています。そのため、施設栽培の果菜類において、灰色かび病及びすすかび病の発生が認められています。向こう1か月の天候は平年に比べ曇雨天の日が多いと予想されており、今後の気象条件によっては、被害の拡大が心配されます。灰色かび病及びすすかび病の発生に注意し、速やかな防除に努めましょう。

### 1 主な被害作物

- 1) 灰色かび病 夏秋トマト、ピーマン
- 2) すすかび病 夏秋トマト

### 2 発生条件

#### 1) 灰色かび病

灰色かび病の発生好適条件は、20℃前後の気温と多湿である。このため、夏秋栽培における果菜類では、梅雨時期の曇雨天により発病が助長される。

#### 2) すすかび病

すすかび病の発生好適条件は、27℃前後の気温と多湿である。このため、夏秋トマトでは、梅雨時期以降の曇雨天により発病が助長される。

### 3 防除の考え方

- 1) 発病果や発病葉は伝染源となるので、見つけ次第ハウス外に持ち出し、土中に深く埋める等の処分を行う。
- 2) 密植を避け、適切な肥培管理で植物体が過繁茂にならないようにする。また、適度な整枝や葉かきを行い、通気をよくするとともに殺菌剤がかかりやすくする。
- 3) 灰色かび病は、現在発生盛期であることから、治療効果のある薬剤を散布した後、予防剤を中心としたローテーション散布へと移行するのが効果的である。
- 4) すすかび病は、発病前の予防散布を基本とするが、すでに発病が認められる圃場では、治療効果のある薬剤を散布した後、予防剤を中心としたローテーション散布

へと移行するのが効果的である。

- 5) 防除薬剤は、大分県農林水産研究指導センターホームページ内にある「大分県主要農作物病害虫及び雑草防除指導指針」 (<http://www.jppn.ne.jp/oita/>)を参照する。なお、薬剤によっては、指針の更新日以降に登録内容が変更されている場合があるため、薬剤のラベルに従って使用すること。

#### 4 防除上注意すべき事項

- 1) 農薬使用基準（使用時期、使用回数等）を遵守し使用する。特に、混合剤の場合、異なる商品名で同一の薬剤成分が含まれる場合があるため、「成分総使用回数」を十分確認した上で使用する。
- 2) 薬剤によっては、高温時に薬害を生じやすいものがあるため、散布時間や天候、使用する展着剤の種類等に十分注意した上で散布を行う。